

当院を受診された患者さんとそのご家族および代理人の方へ

当院では下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、連絡期間内に、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

受付番号	20210148
研究課題名	大腿膝窩動脈領域の下肢閉塞性動脈硬化症患者に対するChocolate PTAバルーンの効果
当院研究責任者	済生会横浜市東部病院 循環器内科/白井重光
連絡期間	情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、西暦2022年6月30日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。
研究の目的と意義	本研究は、「下肢閉塞性動脈硬化症と診断された患者さんのひとりひとりに最も適した治療方法は何か」を明らかにし、より良い治療法の選択に役立てることを目的として行います。
研究の方法	本研究では、研究担当者が対象となる方のカルテ（診療記録）を選び、薬を飲み始めた当時の症状や、検査の値、その後の経過、特に手術を実施した場合は、いつ手術を実施したかについての記録を集計させていただきます。
対象者	西暦2020年2月1日～2021年8月31日の間に、当院で下肢閉塞性動脈硬化症に対してRanger DCBでカテーテル治療された患者さんのうちの一部の方
利用する試料/情報	<p>【情報】</p> <p>基本情報：登録日、EVT施行日、EVT施行時点で判明しうる情報（近位動脈の病変残存がないこと、標的血管に50%以上の狭窄または閉塞を認めること、標的病変に明らかな血栓を認めないこと）</p> <p>患者背景：性別、年齢、身長、体重、BMI（body-mass index）、歩行状態、併発疾患、服薬状況</p> <p>患肢背景：臨床重症度分類（Rutherford分類）、ABI（ankle-brachial index）</p> <p>病変背景：TASC II分類、病変部位、病変部位、病変性状等の術前血管造影検査所見、血管内超音波実施時にはその所見</p> <p>治療情報：実際の治療内容（DCBの実際の使用の有無、他のデバイスの使用状況）、手技時間、透視時間、透視線量、造影剤使用量</p> <p>治療後情報：治療後血管造影所見、血管内超音波実施時にはその所見、治療後ABI、周術期主要事故</p> <p>追跡調査：Rutherford分類、ABI、脱落（理由）、死亡（死因）、下肢大切断、外科的血行再建術移行、再治療、開存状態、服薬状況等の管理状況</p>
研究組織	「当院単独研究」
試料/情報の院外提供	「該当なし」
研究資金源	研究者の私費
結果公表	学会で発表し、雑誌へ投稿予定
研究終了後の試料/情報の取り扱い	研究終了報告日から5年または最終の研究結果報告日から3年のいずれか遅い日まで保管し、匿名加工情報として廃棄します。
問い合わせ先	〒230-8765 横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000 済生会横浜市東部病院 循環器内科/白井重光